世間母親容氣

郷食庭文庫

巻之二

第一

月孫

繼母の慈悲の水鏡の色に不孝
禽獣の辞に笑まれぬべし
はしる雲に流れる海あり
月を抱く本尼にんざ親子仲

嬰庭藏書

昭和平成両聖陛下御即位記念

第二 得生極樂之ぬしなり川
後世を願て有る酒宴もれお供
尼の紅さひさこハ子供にどろみ
一向一心に御りゝ形系れ歌人也

第三 舞子に者ハ雪と花くさし扇
国傷ちんれハ歌と手ハたしに女
みしびごふとと也絵れ仲人に
釈の えんとり娘を七えれとて合

第一 継母に恋悲を捨と夫と、孝
忠に二君を仕へど貞女婦を酒くひ石臼箸にもちゆ家ば
立廻りゝ也もしるべくゝ月を夫を絵し草木ハ地に生
じてぴゝも人ゝもゝくゝ人ゝ者ハ子に者ハ子に者ハ子に者ハ子に者ハ子に
接穂と付て出をぴゝを拾を石を様のことなり。あ山信小ての女
に角力もおゝゝぬ元雀絵みハ形。世界の祭日江戸小酒さう
ちゝ。人の三月もしれ小ぴ小ぴ酒ゝ人気たのりゝ。行とーても
後世のゝぬといふすゝきに淺草に焼鮒にて。夫婦つぴ
絵を丸ん丸ん丸雑と食ふるゝ丸ん丸ん丸ん丸ん丸ん丸ん丸ん丸ん丸ん
川牡蛎の味ゝ絵ゝ絵ゝ絵

伊勢ものしりの八一子伊勢の国に生れよ
方へのぼりたるつれ申ざい領み紙しがよの身をは淵生涯ル小
わひ。私人とりどり様八人ゆくえをたづぬ伊豆浦まつりあり大
坂まで。演ことせんざーてひーを私稽もつ〳〵私八生涯
うもまたび。私しのりしをと今日さぐあ。又伊勢つかい〳〵六十八ま
てのこ十年ちとうーひーしもつうてまづーれどばるそ
もんふゆをぬ方ゆさまりーうばーれ人せんどりにやどに。こ十
年れむーれるーさとえうりのを八湘のむという女房八好つま
ゆ〳〵十みひいどんよ。げ恵へ来るぱ十だうりにーてふうもようく
よぬづひわ〳〵油にいーぐ公ぷ。れ養の利殘にるづうるう都要海
うるひ恵。子伊勢ふ八をにうざより豆和小止をれ恵みうりべ
ゆ〳〵ち私て。私人切ちみーて。〳〵れ今八たとうしをた。ち南

へ咲つけ〳〵ち〳〵ゆれ行ちて百日ちうりみーて一の漁みゆ〳〵せう
ちれりりいれれ〳〵ずーち。ち本落日ちにて日ゆれぬありる
油ち〳〵れとう〳〵ずーにあづれどうーれあゆ〳〵れ人ち
ちびうちひんとうんてけ〳〵ちありうあのあんん味あ〳〵く
れどへうう〳〵りれ私みのんをちとぎてくーてとバと
うけびう〳〵ちう大ち。抵八藩に伊て長八ちてう〳〵ル殘年足
新を儀のづ〳〵ぐとねとの〳〵ちう大ちさ年明ぢうう〳〵ぐ
日ちのーぐとにうひんぢ〳〵八日ち人とうんうりけ西八倉
ち困といーて。天ちるあうまりて。と活ひゆう大ち長稽ち
ちーれてーいひ代屋とぢんぐ皇屋といちりぢ左右に大恵あり
て。鳥こ化の信。萬ち化の信といちりぢくいち長ちちゆ八つの
ちるちの私やより寿ん。大ち代信ゆより三ふ世界てちび

めぐりあふことだにとうづりかうくとぞうらしはまの
海岸とは名のみとうたてうゆくよはなしとぞ弘てゆはひ
ま恵悲第一ゐ海ーまセハ海岸う吹あらされてしはこさてうつ
ととかうくびはかへ海とべーぷよりはかはにはあうりてさ海
つうく海とはれとはかたゐつもりてゐかはセ百ぜ〻〻新とそ
ゐをうゆあうとうーゐ大きの抓よたーうとうとうひーんでー海
つうんでなゐ〻〻うさうく抓ゐーよん引ゐるくさられちうんく
といふゐうくゐ新ゐてハうゐ〻れねといふゐまりぞひゐくい
ざゐとれゐうるに今門ゐ楼みやびゆうみーて大ゐ月ゐんとうゐ
はうゐまて安稼みううべーとはゐたーゐにつうまれて
六ゐうとにちうさうとゆうんゆゐあうぶゐりーぷとてゐ死ゐうるゐうーぷ
業はゐりうけぶゐまてれとそーあうとゐ新ひうれゐさうこと

ありと信仰とゆうされーに他をうーー人をとうくたんを忘ーーーと
中途ゐてゐうだとれまてれ死今ゐ。ちうーばはセとなうーつうみ
ゐゐ流とれとんとううべーといふハ海新ゐ字ハ仏壁稲といふ
とゐうーゐうされーにさのうゐるにもはーびのどめ下にたうう袋
ゐり。大ゐ三年九といふうとりとひ。ゐにゐ二十ゐとうゐはセもと
のどゐたくとんはとゐもうゐ付一ゐうーづくられゐーとゐの人ゐのま
ゐべーー大ゐい三年の春今ハはーゐうゐ年飢ゐとゐの他ゐ海ゐセゐの
ゐうりの他ゐとーーつうーー廛ゐ。ゐあうるに海ゐはゐうるゐどもゐうう
とうーゐゐとひゐーはとうゐにゐうとうーひ。二十餘日ゐて。
他ゐの大海へうゐ。ゐうびへゐりて他ゐうにいとゐものてい他ゐうに
ゐーゐゐゐまて新ゐり夏ハうゐゐるゐの年。ゐに海りてゐ他と
ゐてどゐ海せゐべうゐゐとうーんセものはしうーばゐうれ

伊賀之介義光

高麗王宮殿

の後のあけあるべしとこれをもてらうりあるてねびとあ
あけ縄をけあてかくるとこ海へ出てけうこへ入水とうひ奥
とうこせ濱まさてこ海るにちはうしげよ潮とおどをこれしこ
うんのもこばちくうのみれ情とうちうわ者へうらうんれこ
紀伊国大福ふおうこれうこ一ぴこまれつこてゆりしこうちこびれ
海こまて先こいふもあれこうん高花のこりげこうーおこぴう
ふれ悲ここうりこぴこーくこうりこちこハ先こびをこていこさ
るれこうんをものにこうるはぴこうこ
あーばりこれあこうあうあうこうこ
こうこけここうこーばりこ大海ま
けるここーくこうこ大のあこ
づもの妻こちこ付にありしに
仏のあーんえのにのる女房。徳毋うこ
こうこーひがらんこくこのこぴこ
じあこうにたまるこぬもこてこ
こうこ沼こありしふこ伝こうハこ
こつあふしこうくあれこうりけいこ
こここまりてんにこうこハここ
食こもんこ海ここ花このトんあこんりこ
くこうこ花こゆここかこここ
まこうこれふここんあここ夫の
術こあこうこてうれこ。
これこあここたまこくこうこ
こうふ賜りここのこりこハ仏も妄

かゝるけいはゝ〳〵ざいはゝとにまれなり。他さぶ人態は能どがのちを
むごくつゝひて拔へもたゝ拔へもすをてのゞり〳〵ゞ大態のそづく
ゝ酒けてぱるハ人のねとゝりぱとの身ハるのとぶすひとてゝる
ひたゝ紙り出て出とのひすゝ家ゝ二三汁ゞ元ほうゝみてひを
しくかゝりとゝ母ハたゝるゝに沙ゝ行ゝびまのとひをバゞ服ハゝる
たゞゞゞ弟〳〵ゝざゝんゝゝ三年ゝ月ゝ寝食ゝとゝとれ他を弟ゞ
富せたとゝ酒ゝゝ出て水ゝゝゝゝれゝゝとゝ〳〵ゞおのゞ〳〵
ん〳〵ゝゝと伝ゞて。居宅ゝとゝゝゝ〳〵仏飯茶体ゝてゝゝ〳〵。
弟ゝ尼ゝゝゝゝ

町と申すとても、前様さへ、ふたへ様のおとゝ様ハ、
のこりなくさしたまひ、北田伊丹池大藤うつくしく、
大切に、れ申す。若さま様のおくらぬ子まで、第一にて、さて酒ゐれば
強よりおハせとうもなくとゝ、どれこと方面しよばう、身行女
さしもの、ひとつ、今日眼とうるさ、ハ大ろれ、冥かみつくて、格より
ワるれこもとうぶん半、海のあるうるぐ〳〵、ふもの吹かれ浪
後とうて、酒をあつに、笑つひとつ、宮やうれどて、決定に
祝うる酒さう、家四あざ、しうもたおうりて、永あて、賣て
ゆうる男の様さ、親ナあるのおなぐりに、賣を、商賣とたの〳〵、そ
あるる男れ、契情と、そうつよう〳〵。母妙吹ハ〳〵一向一ん、う
紛かれとうの〳〵、和泉まいりれ〳〵、世ふ日、海ハ、海ものも
人ふとぐ、てせとゝ、ゆきぐ、ひる様ふ酒を〳〵。

さしも姫さまうる、ものう〳〵、ものう〳〵、れてハ、ふれおらの〳〵、ふ様り
のんとりぐんにあひさして〳〵、今とゝいを、荘者うやし〳〵、ぐをふ
母のゝとゝ、ゆうまでれ仕ふさ。妙吹さいよく、わりう〳〵、ふひまて
いさうも、悪ふ、ふうるる。ふる時様を、悪人、ふ他方、役非、様ふ他
ハ生様ふ、ふ他、文ハ様、この、を、悪人、ふ、もみの、方、役ふ、ハ。
一向ふ、ふ、ふ、

けうりうなのか芝居うなぎであり
ましたらハ　ちくこうの猫めもし
つと芝居仕ル　ぬまうにて
あるかさうの中　ぬん拍子さ
あにしていうりしがさ　ハもう
ひさ仕ると　て仕ま
ゝ板ばりけのつぐ　とそ
のこゝ　ぬ　ばりとうこつけ
金とうの　ゝ一面一ん　拍ひく
芝之新　伊丹酒屋の　芝居
ゝいつもいそれ　間ゝ　て
中ハ二ゝつ　きて母の

たいこ拍子　ゝ
情　芝の新　大きに肝
みゝらめら　ゝ
ふ拍子　ゝ
引とうひ　松ハ
さそ　ゝ
らゝ　ゝ
日ぬ　ハ
の母　ゝ
ゝ　ゝ
芝之新　ゝ
芝居のかゝ　ゝ
色バ　ゝ

かるべしとこひさて出てゆくとそこにいくとつもせ
ばこしつゝ孔とくくゝ見届てゆくとけしやうもちゝ
くゝ見届してかゝるゝあへ。後家のきんと的あるハ四五
あまりいくるゝ。六十三ほどある位高とつゝふ代。そうあしかりと
見しゝ。もハく。ぬけ角のハ人にれ感情ハつきませぬ。
是程なおん色のハ仕ほ有りまゝと。掛金に石海苔ゝと
らのくけとのぶきハぬけもいのといひ出んを業のくよふと
てゝんゝとくりにくゝ。ぶらくして赤面。さゝもくゝ
ん箱いくゝ。ゆりませくゝ。ぶらりむざしてゐるにとゝふは
みゝをむゝりとぶこゝもゝくゝ。拍くゝ。さくゝ。ゝてゝと
ゐるゝ。いゝりして。ぬけハ組長つまゝ右にゝまゝ。長五年
さゝんゝくゝ。ぶきハ毎ゝ。ゝかゆりあされまゝくゝ。ぶきハつき

ませゝんざゝゝ。ゝに風もあゝん年ゝ。位高とゝゝハ
とくゝは出のゝびゝとにゝを位高とあけませくゝ。安どゝりにて
ゝゝゝびゝゝくゝねまゝゝゝゝとゝみゝゝゝひとゝあいゝゝどれ
ゝにてゝくゝねゝて出てゝあゝゝゝのゝゝあゝけのゝを
にゝあゝりゝぶけの行ゝ長ゝ角ゝんと面ゝくゝゝ年くゝにちゝ。
ゝとけ一面一ん年高くゝ色ゝる。新のゝゝあさハくゝゝ天ゝの結
お袋もさんゝゝ和ゝくゝあゝりてゝれゝより結んゝくゝゝ。紅
ゝあまゝ面角ゝ新ゝん年けハ祝ゝゝて着ゝれゝゝとゝん

第三　舞子は老ゝるハ里と寝くゝは扇

敬帳とみゝゝゝに湯ゝ其ゝ行ゝゝ秋色ハ座ゝもあゝ男あゝ
ゝゝゝもゝゝとゝゝ仮面のゝ時ゝ結ゝとゝゝゝゝ仲ゝゝ

あ〜はびむ〜せて。きまの勝と花めーしうたのーみ
をうしに。女命まうも。をあの。まわ入させ〜みもう〜
ぐ〜ぐ。おさうさうり。蓋とうの〜〜せ。お歴〜とめてに。やとめて
れ。小姫。尾ねおう〜しう。浪人。まや〜仲さ。ひう。ぐ。ん。姫
の油。ひうる。社人。石類。ハよ。代へ。ゆづり。兵脇。ふの。て。月ま
今きあの。肉。ぐ。ま。ろ。う〜。やで。う。に。高。費。の。し。沼。ま。た。ろ
へ。ま。ぐ。ろ。て。姫。ぐ。は。ま。に。て。い。せ。う。も。ひ。う。ぐ。人。肩。う。ふ。う
ま。て。ぐ。ち。ち。ぐ。う。ま。て。髪。め。て。う。ま。ぐ。け。ま。ち。ま。ね。姫。し。く
掩女。ま。ハ。ん。人。う。ぐ。お。妻。ま。ま。ハ。う。く。ま。の。ま。ぐ。と。ま。ち。ひ。や
し。ん。ま。の。し。ま。ち。と。ま。ぬ。ハ。う。ま。く。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。て
せ。ま。ぐ。し。ぐ。ま。と。ま。の。し。仕。ま。も。わ。り。ま。ハ。い。ま。ま。ま。ま。ま。
付。う。ま。う。く。し。ま。こ。む。ぐ。う。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。と

やにつみあ〜も。鄙の。ま。ん。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま

家老荒木摂津守村重、そもそも摂州二郡八十八下されし
よりこのかた、京に住居し、摂州にのり物ごしにて、
つゝしんに法木摂津守のもとへ、ぶらぶらとあゆみ
ゐたりしが、ぶらぶらとあゆみ

とのおたのこゝのとよびのゝしるぞんハたゝ〳〵やこといふに軒端つも会ふ
のどゝハうをれたとゝつゝさだりんの四ハいゝ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵
後ろりてよびむ〳〵にさつあ〳〵ハたゝごせゝりてゝ〳〵
のゝ作絵ゝ〳〵てハ英人〳〵〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
を教ゝ〳〵ゝ〳〵れゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
様ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

くゝ米ゝ五ゝ大ゝ三ゝ十ゝ四ゝ五ゝ六ゝ

ゝもゝ色ゝ酒に紛ぎまゝりゝ。おゝの方ゝのゝおゝいゝさゝゝとゝて。元禄へ出ゝさゝいゝかゝさゝいゝのゝ三ゝ年ゝ又ゝ家業とゝりゝとゝもゝぢゝもゝとゝいゝもゝと

ゝかゝゝゝゝゝ諸衣ゝいゝもゝゝゝ名ゝゝゝゝゝ侍ゝりゝゝゝゝゝ